

JANSI Annual Conference 2025 挨拶

2025/3/12 長崎晋也

原子力規制委員会の長崎晋也でございます。

本日は JANSI Annual Conference 2025 にお招きいただきありがとうございます。一言ご挨拶申し上げたいと思います。私は、昨年 9 月 19 日に原子力規制委員会の委員を拝命いたしまして、この JANSI Annual Conference は初めての出席となります。ご挨拶の機会をいただきましたことを重ねてお礼申し上げます。

最初に、私が原子力規制委員会の委員として安全についての使命を遂行するに当たりましては、常に高いところを目指していくという気持ちを持ち続けることが大事だと思っています。今で十分安全だからよいというのではなく、常に安全性の向上を目指すことが重要だということを委員就任の際に表明しております。JANSI におかれましても、自主的・継続的に安全性向上に取り組み、高い水準の安全性を追求することを組織の理念としているものと思います。この点は私の思いと同じだと認識しています。

東京電力福島第一発電所事故直後の 2012 年に設立された JANSI

は、民間の第三者機関として、これまで原子力事業者の安全の向上に積極的に取り組んでこられました。自主規制組織としての活動をするためには、高い技術力や専門性が重要だと思います。専門性が高い分野だからこそ、教育訓練、力量の維持・向上には、相当の工夫や苦勞をされているかと思います。

立場は違いますが、我々、原子力規制委員会でも、その組織理念に掲げられた「原子力に対する確かな規制を通じて、人と環境を守る」という使命と活動原則を実践するためには、人材育成は重要なテーマです。

人材育成は、今年の JANSI Annual Conference のテーマでもありますので、本日は、そのような思いも込めまして、人材育成や教育訓練について、私が個人的に思うところを述べさせていただき、その後に、JANSI に期待することをお伝えしたいと思います。

さて、規制委員会は 5 年毎に中期目標を設定しており、令和 7 年度は次期中期目標期間の初年度となります。次期中期目標は、今後 10 年間程度を見据え、新たな規制ニーズへの対応の必要性や、安全上重要な分野に規制資源を重点的に投入できるよう、規

制制度及びその運用を効果的かつ効率的なものへと改善していくことが求められることなど、環境の変化を踏まえて策定したものです。

中期目標の中でも、人材育成については、重要な課題と位置付けております。国全体として人口減少社会への移行が見込まれる中で、これらに対応していくためにも、必要な能力を有した職員の採用や育成、及び職員一人ひとりの能力の向上が大きな課題であります。また、東京電力福島第一原子力発電所事故から14年が過ぎ、当時の経験を有する者が現役を退いていく中で、経験者の思いや使命感を次世代に引き継いでいくことも課題として捉えております。

規制委員会では、専門知識などの向上に必要な資格制度や研修の運用・改善、学習環境の整備により職員を育成し、その力量を管理するほか、業務遂行に必要な知識の管理を継続的に実施し、技術伝承を促進していきたいと考えております。

JANSIにおかれましても、原子力事業者の経営層から管理者層に至る各階層に対して、外部機関のノウハウ等も活用したリーダーシップ研修や事業者の安全文化醸成のための支援活動に取り組んでできていると承知しております。今後、期待することとしま

しては、前々回、原子力規制委員会の山中委員長から要請しましたように、原子力安全に加え、核セキュリティの向上のための人材育成にも取り組んでいただきたいということ、それから私としては、長期間停止していて今後再稼働が見込まれているプラントにおける技術や知識の伝承にもしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

特に、安全確保のために、機器の定期的な保守運転は、今でもされていると思いますけれども、安全の維持確保に重要な機器をきちんと網羅しているのかどうかということについて再確認いただくことや、定期的な動作確認を通して、安全確保とともに、従業員の方々の機器操作に慣れていただくなど、そういう観点でも人材育成にご配慮をお願いしたいというふうに思います。

次に、人材育成の観点以外で、JANSI に対するお願いをひとつお話させていただければと思います。

塩野義製薬がゾコーバを開発し、ホンダが自動運転レベル3の車を販売したとき、塩野義製薬やホンダが社会、国民に対しての第一義的な安全に対する責任を負い、規制はあくまで裏方として国民の健康、生命を守る責任を果たしました。原子力も同じで、

国民の生命・財産、日本の環境を守る第一義的責任は原子力事業者にあり、原子力規制委員会・規制庁は社会的には裏方として国民の負託にこたえるべくその職務を全うしていく組織だと考えます。すなわち、JANSI におかれましては、国民の前面に出るくらいの気概をもって、最新の安全に関する知見や安全を向上させる科学技術の活用においては躊躇することなく、そして原子力事業者の安全性向上に関して厳しく評価し、そして最大限の支援を続けて頂ければと思います。

以上、JANSI に対するお願いでございました。

最後に、本日のカンファレンスが実りあるものとなることを期待いたしますとともに、JANSI の今後のますますの発展を祈念し、簡単ではございますが私の挨拶とさせていただきたいと思えます。

ありがとうございました。